

今年度の主な検討事項

今後の防災スペシャリスト養成の在り方に関する事項

- ① **研修の受講者** 【⇒ 第2回企画検討会】
(受講者像 等)
- ② **研修の手法** 【⇒ 第1, 2回企画検討会】
(オンラインの活用 等)
- ③ **構成、内容**【⇒ 第3、4回企画検討会】
(コースの再編、研修指導要領の改編、地域研修との連携
人材ネットワークの取り組み、トレーナーの育成 等)
- ④ **修了者の能力評価**
(フォローアップ、能力評価の活用、修了歴の共有、資格 等)
- ⑤ **その他**
(他の研修の認証、OJT研修 等)

新しい研修を構築し、
令和5年度からの実施を目指す

(参照：令和3年度第3回企画検討会「資料3 防災スペシャリスト養成の課題と在り方について」を改定)

①研修の受講者

- 以下の枠組みを「①研修の受講者」として「③研修の構成・内容」を検討する

研修の受講者	求める能力	
本部運営の中核的役割を担う職員	● <u>組織のトップの懐刀として、防災業務を全般的に知り、調整できる</u>	市区町村の危機管理監等のマネジメント力
個別課題の対応に専門的に従事する職員	● <u>防災業務全般に関する基礎的な知識があり、一定程度の調整ができる</u>	市区町村の課長等のマネジメント力
	● <u>予防、応急、復旧・復興の各段階における専門的な業務を、迅速かつ適切に実行できる</u>	市区町村の係長等のオペレーション力

- 上記の「①研修の受講者」を踏まえ、「③研修の構成・内容」では以下の検討する。

- 受講者がコース選択時の参考となるように、3つの枠組みに基づき、各単元に「研修の受講者」を示す。



- **職位を一般職員・課長級・部局長級に分ける**
- **それぞれの推奨メニューを用意する**

(参照：令和3年度第2回企画検討会「資料3 防災スペシャリスト養成の課題と在り方について」)

②研修の手法

		オンライン			対面
		オンデマンド		リアルタイム	特定期間
		常時	特定期間	特定期間	
各手法 の 特徴	時間	・時間と問わず受講が可能	・期間内であれば、時間を問わず受講が可能	・特定の時間に受講 ・講師の調整が必要	・特定の時間に受講 ・講師の調整が必要 ・感染症対策が必要
	場所	・場所を問わず受講が可能 ・受講環境(場所・端末・インターネット)の準備が必要	・場所を問わず受講が可能 ・受講環境(場所・端末・インターネット)の準備が必要	・場所を問わず受講が可能 ・受講環境(場所・端末・インターネット)の準備が必要	・会場の確保が必要 ・参加に費用負担が必要(旅費等)
	コンテンツ	・事前に教材準備、録画が必要 ・配信サイト等が必要	・事前に教材準備、録画、撮影が必要 ・配信サイト等が必要	・事前に教材準備が必要 ・ライブ配信が必要	・事前に教材準備が必要
	参加者数	・多くの受講者が受講が可能	・期間内であれば、多くの受講者が受講が可能	・演習の双方向性を保つために参加者数の上限有り(60人程度)	・会場収容人数や、演習の双方向性を保つために参加者数の上限有り(70人程度)
	受講機会	・時期を問わず繰り返し受講が可能	・期間内であれば、繰り返し受講が可能	・受講者のタイミングで受講不可	・受講者のタイミングで受講不可
	受講効果	・一方向型の学習 ・人的ネットワークの構築が難しい ・グループでの共同作業が不可能	・一方向型の学習 ・人的ネットワークの構築が難しい ・グループでの共同作業が不可能	・同時双方向型の学習 ・対面に比べ人的ネットワークの構築が難しい ・対面に比べ、グループでの共同作業が難しい場合有り	・同時双方向型の学習 ・対面によるコミュニケーションで人的ネットワークの構築に繋げやすい ・グループでの共同作業がしやすい
実施例		eラーニング (R3年度～)	オンデマンド型座学 (R2年度～)	リアルタイム型演習 (R2年度～)	対面型座学, 対面型演習 (H25～R1年度)

オンラインの活用と受講者拡大を勘案しつつ、研修の構成・内容を検討する

③研修の構成・内容：R3年度これまでの議論

応募者ニーズと検討会でのご意見を整理

これらを実現するための論点



- 柱 1. 学習機会の拡大
- 柱 2. コースと単元の見直し・拡充
- 柱 3. 職位に応じたメニューの設定・提示
- 柱 4. 有明の丘と、地域研修、OJT研修の連携

- ・ 既存の10コースをベースに議論を進める
- ・ 研修の構成・内容に関する柱に基づき設定された4つの論点について議論を開始

論点A：防災基礎のオンデマンド化
⇒視聴可能期間、修了認定、演習について

論点B：受講者の職位に応じたメニュー構成
⇒職位別メニューの具体案

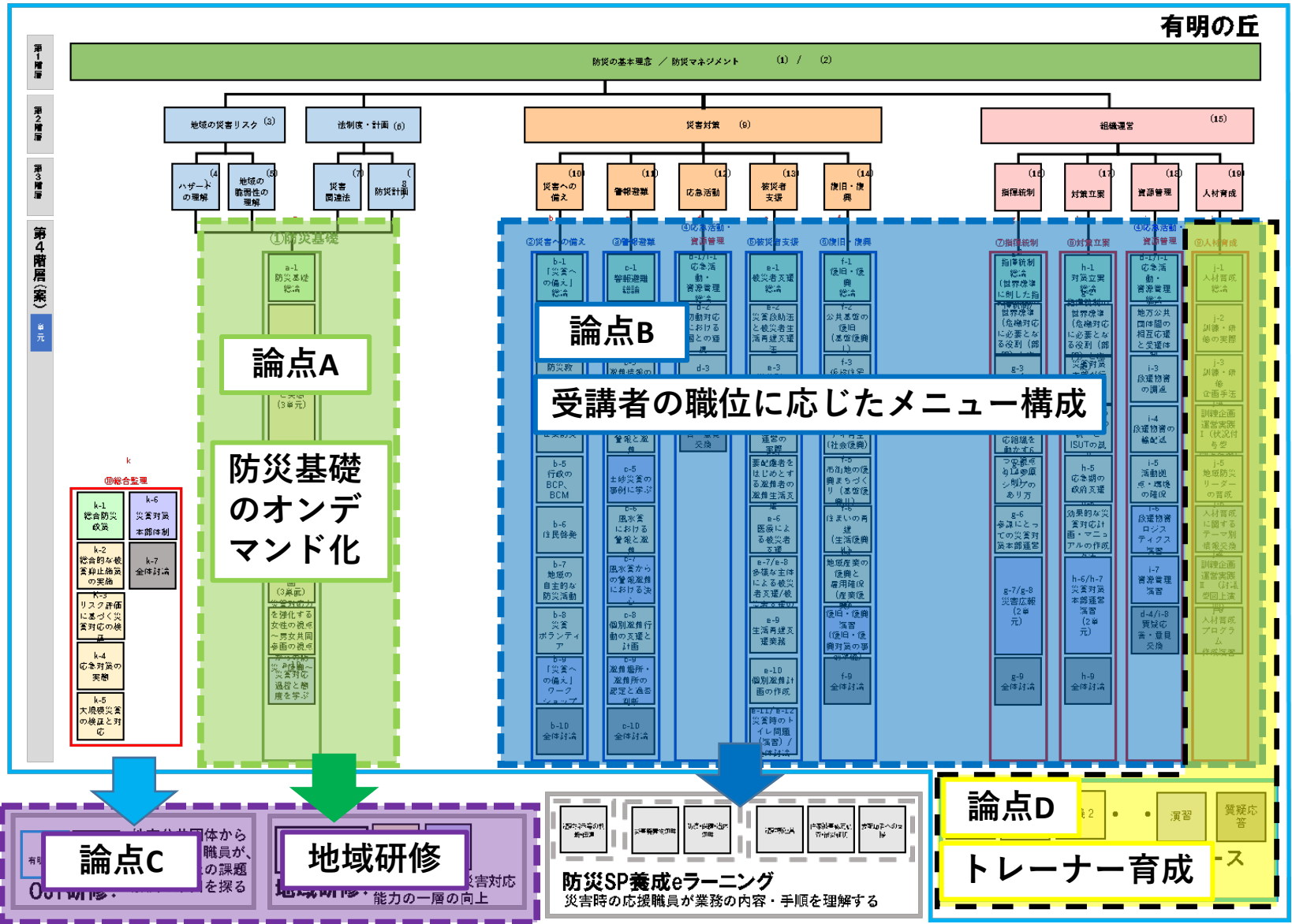
論点C：地域研修及びOJTとの連携
⇒有明の丘の単元を活用、有明の丘との差別化・地域特性

論点D：トレーナートレーニングコース新設
⇒トレーナー像、オンデマンド化が進む中でのコースの位置付け

③研修の構成・内容：R3年度これまでの議論

研修の体系

第4階層の色凡例 総論 座学 演習 全体討論 エラーニング



* 次ページ以降、各論点に関する今年度のまとめと、来年度のより具体的な論点 5

③研修の構成・内容：論点A 防災基礎のオンデマンド化

○今年度の議論に基づいたご提案

- R5年度から防災基礎を完全オンデマンド化し視聴期間を拡張
- オンデマンドのみで修了を認定
- スペシャルコンテンツとしての選択制演習あり

○来年度の論点

1. 視聴可能期間

- 従来の二週間を年二回から、どの程度拡張するか

2. 教育保証と修了認定のためのテストの仕組み整備

- 教育効果のチェックをどのように行うか
- テストの形式、テストバッテリーの見直し

3. 選択制演習の構成

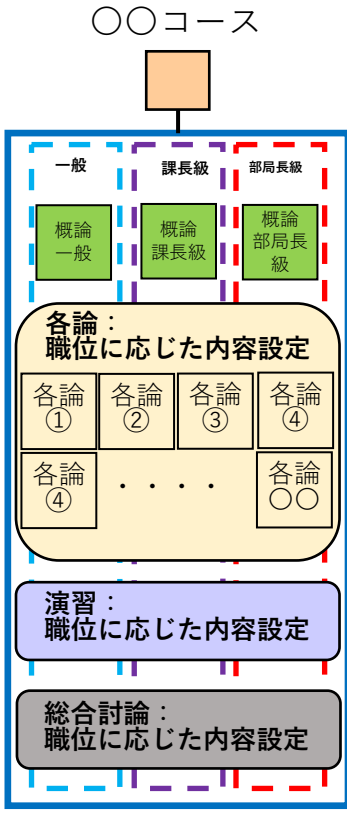
- 対面形式かオンライン形式か
- 演習か、講義に対する質疑応答の場合か、あるいは両方か
- オンデマンド+演習受講の修了認定も、オンデマンドのみとは別に出すか

③研修の構成・内容：

論点B 受講者の職位に応じた推奨メニューの提供

○今年度の議論に基づいたご提案

- R5年度からの、職位別推奨メニューの提供を目指す
- 各コースに、概論(エッセンス)+各論+演習を準備する
- 推奨メニューを以下のように設定する



		一般職員		課長級		部局長級	
		【現場応援担当】 ①事務系部局担当 (総務、福祉系部局) ②技術系部局担当 (土木系部局)	【現場業務対応】 危機管理課担当 危機管理室担当	【現場業務リーダー】 ①事務系部局課長 (総務、福祉系課長) ②技術系部局課長 (土木系課長)	【総括業務リーダー】 危機管理課長 危機管理室長	【本部業務班長】 ①事務系部局長 (総務、福祉系部長) ②技術系部局長 (土木系部長)	【本部総括班長】 危機管理監 防災監
防災基礎	概論	●	●	●	●	●	●
	各論+演習 (いずれか)※1	●		●			
	全5コース		●		●		
組織運営	概論			●	●	●	●
	各論+演習 (いずれか)※2					●	●
	全5コース						●
受講項目数	エッセンス コース	5個 2～6個	5個 6個	9個 2～6個	9個 6個	9個 3個	9個 5個7

③研修の構成・内容：

論点B 受講者の職位に応じた推奨メニューの提供

○来年度の論点

1. コース内容の作成

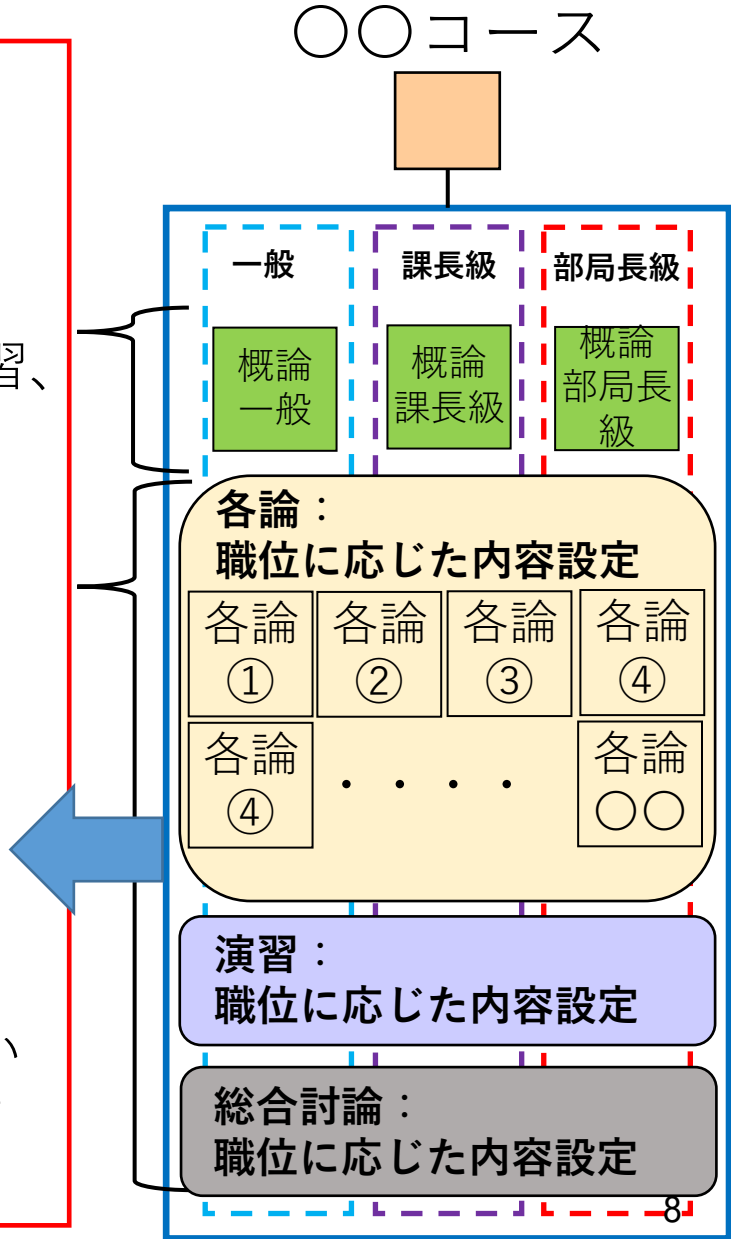
- ・ 受講者の職位に応じて学ぶべき内容の検討
- ・ 今の形をベースに、内容を概論、各論、演習、総合討論に整理する

2. 研修指導要領に職位の要素を含める

- ・ 職位の要素を含めることで研修指導要領をリニューアルする
- ・ 研修指導要領に基づき標準テキストを整備

3. 修了認定の検討

- ・ 既存のコース毎認定を基本としつつ、新しい認定条件(職位毎のパッケージ化、等)を検討



③研修の構成・内容：論点C 地域研修について

○今年度の地域研修

- ・ 地域からの独自講義・演習の提案がなかった
- ・ オンライン研修を含めて、研修内容の満足度は高いが、地方には実施のノウハウがない
- ・ 人的ネットワークの構築に对面研修が望まれている

○今年度の議論に基づいたご提案

- ・ R5年度から、地域特性や課題に根差した演習を提供する
- ・ 有明の丘研修の防災基礎オンデマンドを必修単元にする

○来年度の論点

1.開催自治体との密接なコミュニケーション

- ・ 開催自治体、検討会委員、内閣府の三者による地域検討会
- ・ 県の危機管理部署や気象台などの地域のコア人材との協力

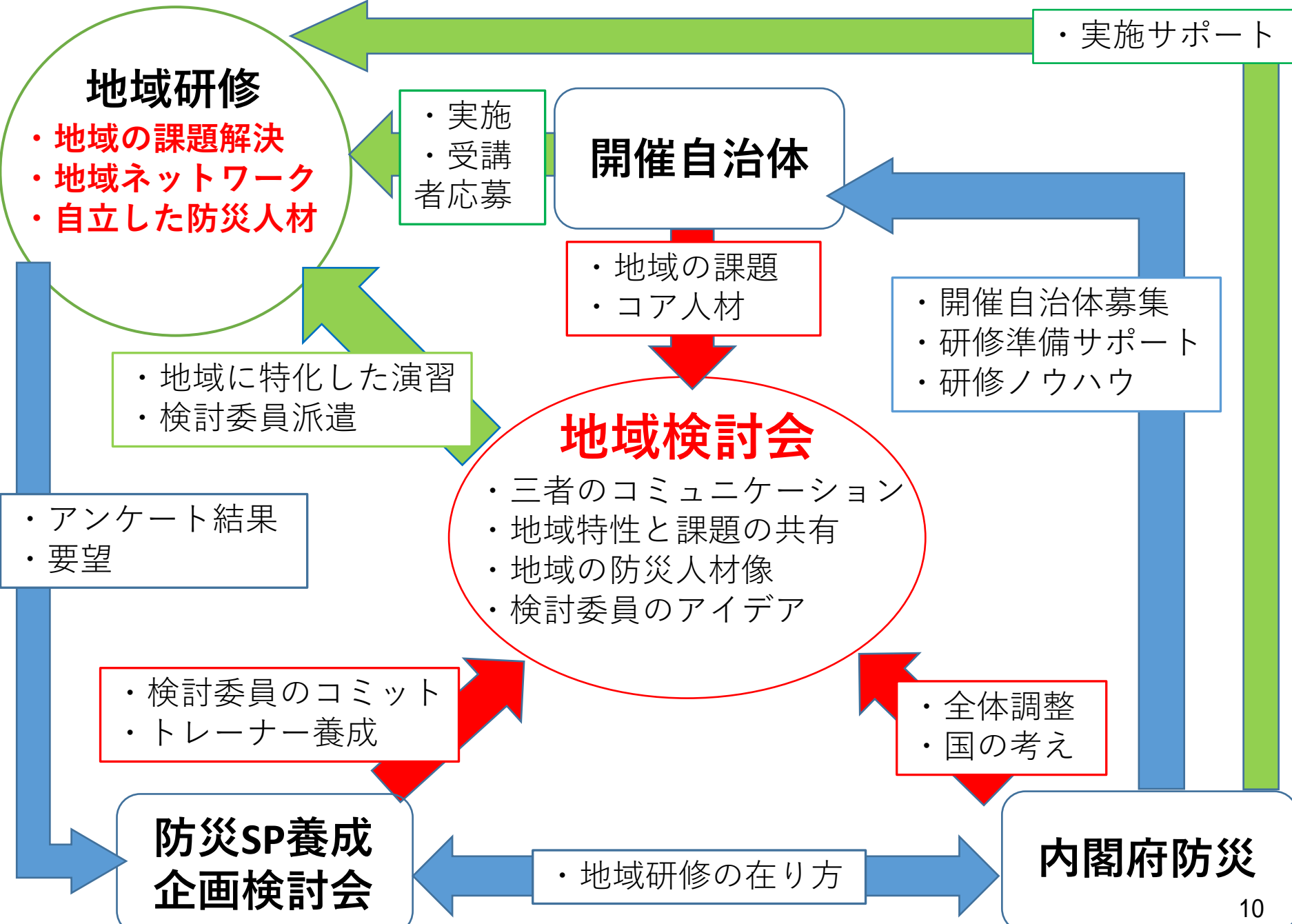
2.地域特性や課題を重視し理解を深めるための演習

- ・ 地域特性を加味した演習の在り方
- ・ 地域での人材ネットワークの構築

3.地域が自立して研修を実施できる取り組み

- ・ 研修のノウハウを伝える仕組み
- ・ 自立した研修を継続できる仕組み

地域による自立した防災人材の育成の推進に向けた仕組み



③研修の構成・内容：論点Dトレーナートレーニング

○今年度の議論に基づいたご提案

- R4年度はトレーナートレーニングコースの建付けを議論する
- R4年度は人材育成コースのWGを中心に検討を進める

○来年度の論点

1. トレーナーの定義を整理する

- 求められるトレーナー像
- トレーナーの能力をどう評価するか
- オンデマンド座学が進んできた中で求められるトレーナー像
- 自分の地域の力を高める志を持つ人をトレーナーとして育成してはどうか

2. 防災SP養成研修の体系の中での位置づけ

- 有明の丘研修・人材育成コースとの連携
- 地域研修との連携

④修了者の能力評価

○今年度の議論に基づいたご提案

- テスト・テストバッテリーを充実
- 研修の効果測定を能力評価(個人/組織)に繋げる仕組みの検討
- 資格認証を含めた能力評価(個人/組織)の仕組みの検討

○来年度の論点

1. テスト・テストバッテリーの具体案

- オンラインに耐えうる形式
- 研修受講後、一定期間をあけた後のテスト(フォローアップテスト)、等

2. 有明の丘研修の効果測定の見直し

- 受講1年後の修了者及び組織向けアンケート・ヒアリングの結果分析

3. 能力を保証する仕組み

- 受講者がポイント制度等のクレジットを得られる仕組み
- 受講者の修了歴を長期にわたって保管していく仕組み

4. 他の資格認証や人材ネットワークとの連携

- 地域防災マネージャーの認定条件
- 総務省総括マネジメント支援員との連携

⑤ その他

○今年度の議論に基づいたご提案

- 人的ネットワーク活性化のより一層の推進
- 必要に応じた知識体系の整備
- 内閣府OJT研修へのご意見を伺いつつ連携を進める

○来年度の論点

1. 人的ネットワーク活性化の仕組み

- オンラインフォーラム、交流会の開催を検討
- オンライン研修と対面研修の効果的な組み合わせ

2. R5年度からの研修に対応した知識体系の見直し

- 研修指導要領の変更に応じた知識体系の見直し

R3,4年度の主な検討事項：全体像の中の位置づけ

(平成28年度「防災スペシャリスト養成」企画検討会 報告書の図1-1を修正)

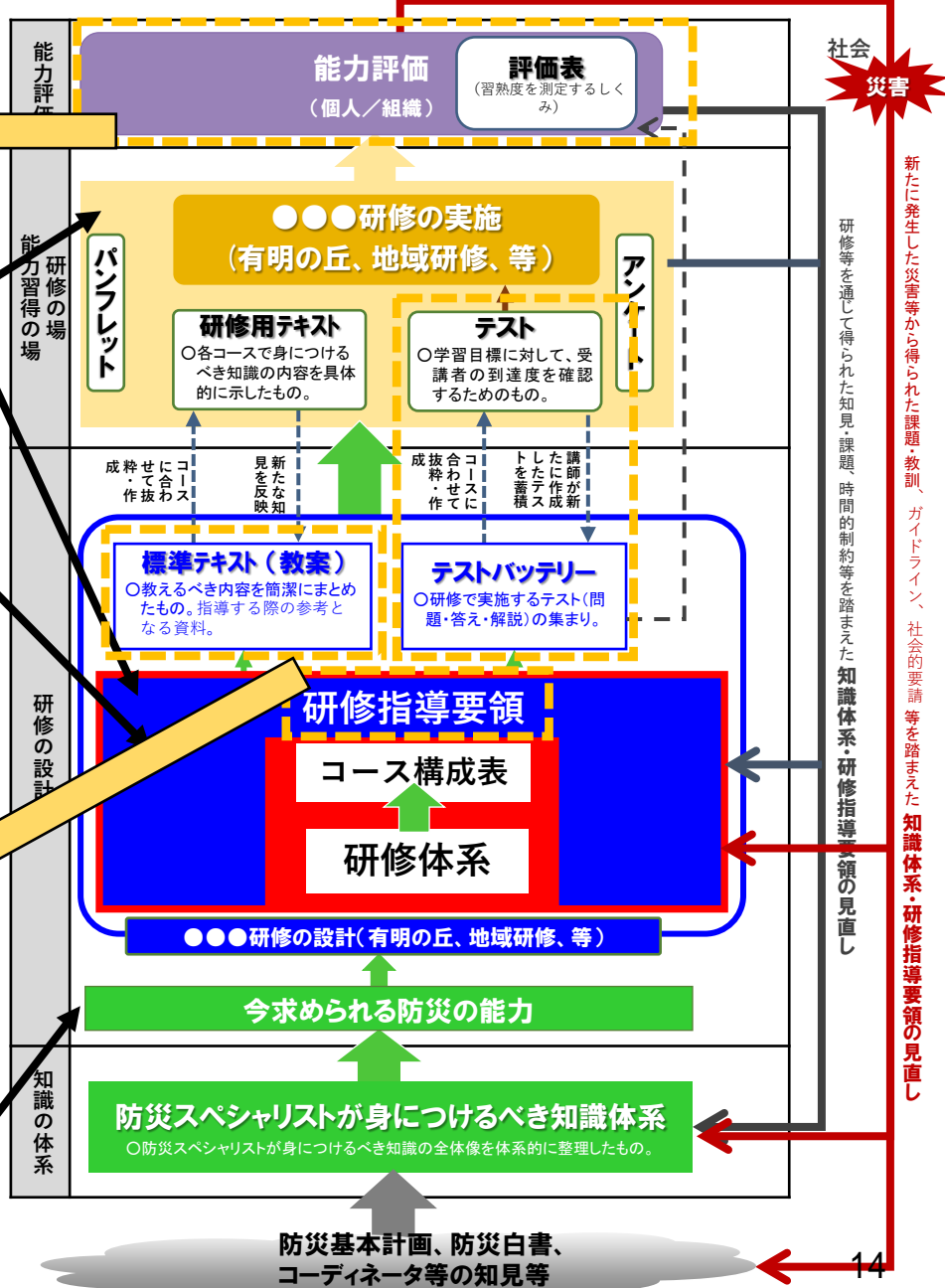
R4年度以降、能力評価の仕組みを議論
 ⇒ 研修の効果測定と能力評価をつなげる仕組み
 ⇒ 地域防災マネージャー等の資格認定

R3年度第1、2回企画検討会で研修手法を議論
 ⇒ オンラインの活用と受講者拡大を勘案しつつ、研修の構成・内容を検討する

R3年度第3、4、5回企画検討会で研修体系やコース構成の骨格を議論
 ⇒ 応募者ニーズの把握
 ⇒ 研修体系とコース構成に関する4つの柱を設定
 ⇒ 4つの柱に基づいて具体的な論点を整理
 ⇒ R4年度の課題を提示

R4年度以降、研修体系の中身とテストを議論
 ⇒ 研修指導要領の改訂(職位の要素)
 ⇒ 標準テキストの改訂(職位の要素)
 ⇒ テストバッテリーの改訂(オンデマンド、職位)

R3年度第2回企画検討会で研修の受講者像等として設定
 ⇒ 職位を一般職員・課長級・部局長級に分ける
 ⇒ それぞれの推奨メニューを用意する



新たに発生した災害等から得られた課題、教訓、ガイドライン、社会的要請等を踏まえた知識体系・研修指導要領の見直し

R5年度からの防災SP養成研修見直し(案)

①一人でも多くの地方公共団体の職員が防災に関して学ぶべき事項を効率よく習得する仕組み(有明の丘)

- **防災基礎コースの完全オンデマンド化**
⇒視聴可能期間の拡張による受講者拡大
- **職位別推奨メニューの提供**
⇒職位に応じた合理的なコース選択で受講者拡大

②地域による自立した防災人材の育成の一層の推進に向けた仕組み(地域研修)

- **地域検討会を新たに設置する**
⇒地域特性の理解と地域の課題の共有・解決

③防災SP養成研修をより実効的且つ効果的にする仕組み

- **オンラインと対面形式の効果的な組み合わせ**
⇒効率的な学習と人的ネットワーク構築の両立
- **有明の丘研修の充実化に合わせた能力評価**
⇒有明の丘研修を通じた地域防災マネージャー育成の促進